

会員アンケート結果のご報告

菊花の候、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は当会の活動に多大なご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、本年4月に認定資格を失効して以来、大変ご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。6月6日に会員の皆さまにお手紙をお送りし、「認定資格失効の経緯及び今後の取り組み」をご報告申し上げました。爾来、会の運営を改善すべく、第三者による認定失効の原因明確化を進め、同時に事務局の強化に努めているところです。第三者調査は終わり、弁護士からの提言を入手する段階にまいりましたので、それらを会としての方針に展開して、皆さまにご報告する予定にしています。

さらに会員の皆さまのお声を運営に活かすべく、8月にアンケートを実施させていただきました。全国の掃除に学ぶ会140か所にお願ひし、そのうち75か所、123名の方々から貴重なお声を頂戴しました。大変遅くなりましたが、アンケート結果をホームページにてご報告させていただきます。詳細の内容は下記添付資料をご覧くださいますようお願い申し上げます。資料4の「認定資格の取得経緯とNPO法人制度の概要」は参考資料としてお読みいただきたく存じます。

添付資料の内訳

資料1 「会員アンケート(原紙)」

資料2 「アンケート結果集計グラフ」

資料3 「アンケート結果のまとめ」

資料4 「認定資格の取得経緯とNPO法人制度の概要」

これからは、皆さまのお声を方針に反映し、より風通しの良い運営を目指して改善してまいります。鍵山相談役の念い(おもい)を未来に繋ぎ、これからも掃除に学ぶと共に、この会の心願である「掃除を通して心の荒みをなくし、世の中を良くする」に努めてまいります。この度は誠にありがとうございました。今後とも引き続きご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2025年11月18日

特定非営利法人 日本を美しくする会 会長 富田 浩志

日本を美しくする会を愛する皆さま

会員アンケート

特定非営利活動法人 日本を美しくする会

趣旨

6月6日付け「認定 NPO 法人資格失効の経緯及び今後の取り組みのご報告」で、日本を美しくする会の現状と今後についてお伝えさせていただきました。今回の認定失効をきっかけとして、当会はより風通しの良い、より明るい組織にまいります。そのために、会員・賛助会員の皆さまの声をお聞きし、今後の運営に活かし、また事業活動にも反映してまいります。皆さんと共に、鍵山秀三郎相談役の念い(おもい)を大切に、未来に繋いでいきたいと思ひます。どうか忌憚のないご意見をお聞かせください。

回答 2025 年 月 日

| | | | | | | |
|-----|-------------|---------------|-------|--------|-------|---------------|
| 氏名 | | 性別 | 男性 | 女性 | 都道府県 | 所属会 |
| 年齢 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 (○をつける) |
| 掃除歴 | 1年未満 | 1-5年 | 5-10年 | 10-20年 | 30年以上 | |
| 会員種 | 賛助会員(個人・法人) | 正会員(理事・代表世話人) | 便教会 | 一般 | | |

空欄も結構ですが、あとで確認したいことがある場合など、出来るだけ記入いただくとありがたいです。趣旨や説明などは次頁。

| Q | 質 問 | 回答(○をつける) | | | 備考 思ったことを自由にお書きください |
|-----|----------------------|-----------|----|----|------------------------|
| | | いいえ | 少し | はい | |
| 1. | 日本を美しくする会の理念を知っている | | | | |
| 2. | 会の理念に賛同している | | | | |
| 3. | 本部の方針や声は伝わっている | | | | |
| 4. | 会の社会貢献活動に誇りを持っている | | | | |
| 5. | 会の未来に不安がある | | | | |
| 6. | 会は“認定”を失ったことを知っている | | | | |
| 7. | “認定”の意義・意味を知っている | | | | |
| 8. | “認定”は会の発展に必要と考える | | | | |
| 9. | “認定”の再取得に賛成します | | | | |
| 10. | 会は賛助会員増加の努力をしている | | | | |
| 11. | 「清風掃々」を読んでいる | | | | |
| 12. | ホームページを見ている | | | | |
| 13. | LINE 公式を見ている | | | | |
| 14. | 会の情報開示に満足している | | | | |
| 15. | 収入の 8 割は賛助会員からと知っている | | | | |
| 16. | 予算、支出、損益等を知っている | | | | |
| 17. | 掃除に学ぶ会の人間関係は良好である | | | | |
| 18. | 掃除に学ぶ会の活動に満足している | | | | |
| 19. | 何でも話せて、提案もできる | | | | |
| 20. | 本部やブロックとの交流はある | | | | |
| 21. | 掃除以外の団体との交流をしたい | | | | |

(裏面に続く)

フリーアンサー（何でも率直にお聞かせください）

会に対する要望・問題点があれば

・

会をどう継続・発展させたいと思いますか

・

その他何でも

・

ご回答先:Eメール nihonsouji@souji.jp FAX03-6304-5990

ご回答希望日:2025 年 8 月 25日

アンケートの補足説明

- Q1 **会の理念** 「掃除を通して心の荒みをなくし、世の中をよくすることが私たちの心願です」
- Q3 **本部の方針や声** 本部では執行部会や理事会をしています。会の中期ビジョンや年度方針、そして相談役後の会がどうなるのか、などに関心はありませんか。これらが伝わっていますか。
- Q6 **会は“認定”を失った** 昨年末当会は更新審査において東京都の認定基準に不適合と判定され、2024 年 4 月から普通の NPO 法人になりました。

Q7 “認定”の意義・意味

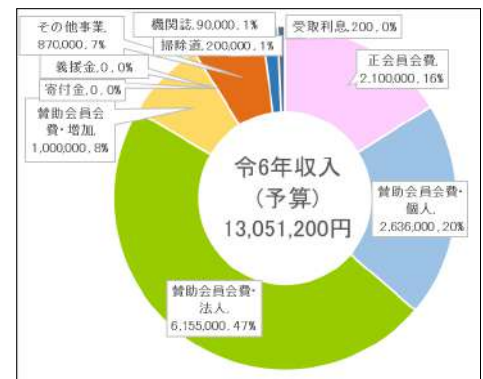
- 社会的意義のある活動をし、かつ内部的にも管理された法人という、行政のお墨付き
認定 NPO は、全国約5万の NPO 法人のうちわずか 2.6%。行政・学校、社会からの信頼が得られます。
- NPO 法人は賛同者を広く集めることができ、寄付者には税優遇措置があります。認定は、その比率が NPO の数倍。

Q13 会の情報開示に満足していますか

- 2022 年度予算と支出明細など、「清風掃々」49,50,51 号に開示

Q14 収入の 8 割は賛助会員 (右グラフ)

- 当会は行政補助金は受けておらず、すべて会員の浄財です。
- 総会議決権のある正会員(理事・代表世話人)は 16%。残りほぼ 80%は賛助会員(法人・個人)からの寄付です。当会は賛助会員の寄付で成立しています。



Q15 予算、支出、損益等を知っている

- 予算 年間 1200-1300 万円です。
- 支出 どこにどのように使われているか、清風掃々で公開しています。
(「清風掃々」第 50 号)
- 損益 2015 年以来 10 年実質連続赤字です。
(右図) コロナ発生の年など(2021-2023)は、事業費をあまり使わなかったために、黒字化。
東日本大震災の義捐金などでいただきました浄財が 5 千万円近く残っていましたので、現在も運営が継続出来ています。(右下グラフ)



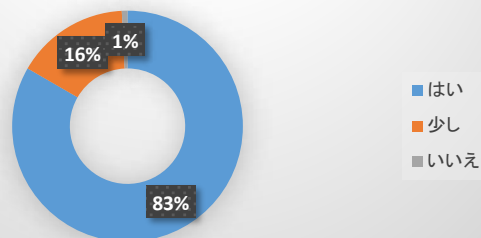
フリーアンサー

会員の意見を聞くことは経営の基本です。忌憚のない要望や提案などをお寄せください。これらは、日本を美しくする会の未来のために必ず役立ってます。どうかよろしくお願いいたします。

以上

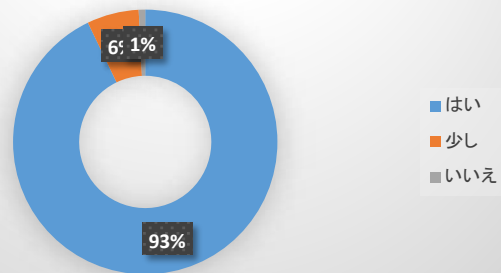
アンケート結果①_(Q1-Q6)

日本を美しくする会の理念を知っている



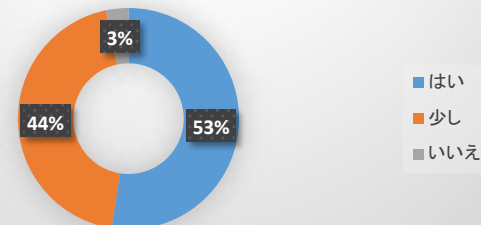
➡ 理念は、ほぼ認識されている

会の理念に賛同している



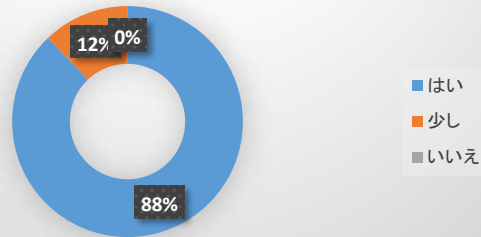
➡ 9割以上が理念に賛同している

本部の方針や声は伝わっている



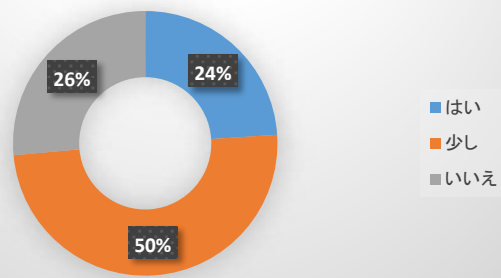
➡ 本部の方針は、半数強には伝わっている

会の社会貢献活動に誇りを持っている



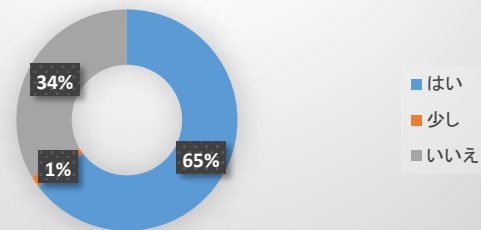
➡ 9割弱が社会貢献活動に誇りを持っている

会の未来に不安がある



➡ 少しを含めると、76%が会の未来に何らかの不安を抱いている

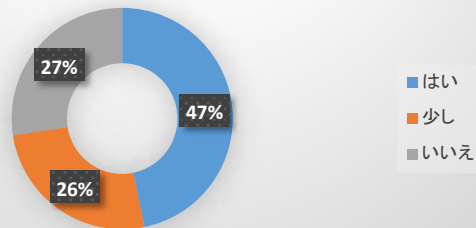
会は“認定”を失ったことを知っている



➡ 34%が認定を失ったことを知らなかった

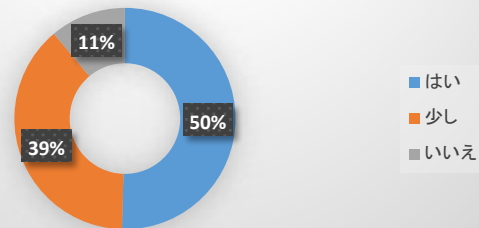
アンケート結果②_(Q7-Q12)

”認定”の意味・意義を知っている



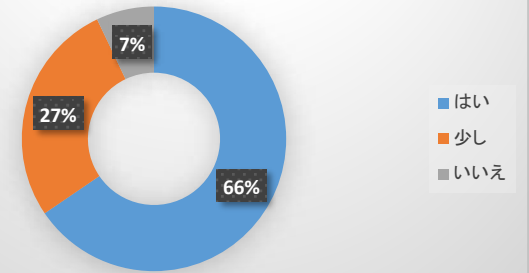
➡ 約半数が、認定の意義を把握出来ていない

”認定”は会の発展に必要と考える



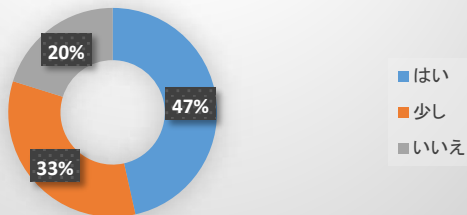
➡ 会の発展に認定が必要か否かは意見が二分している

”認定”の再取得に賛成します



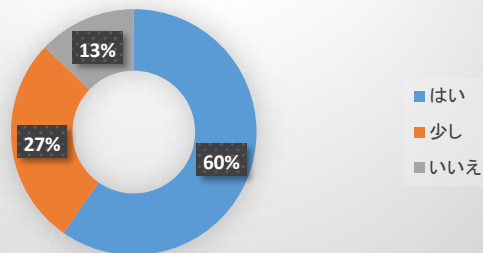
➡ 7割弱が認定再取得に賛成している

会は賛助会員増加の努力をしている



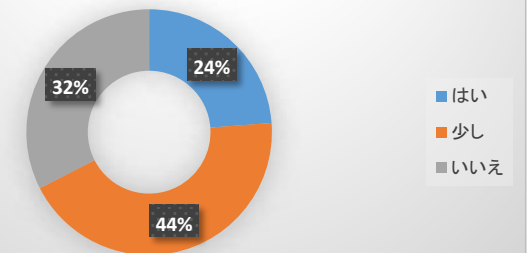
➡ 半数強は、賛助会員増加に向けて、何らかの工夫が必要と感じている

「清風掃々」を読んでいる



➡ 6割が、清風掃々を読んでいると回答（少しを含めると9割弱）

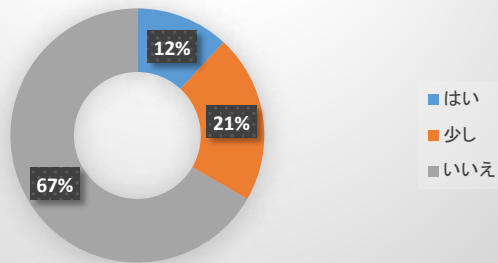
ホームページを見ている



➡ 2割強がホームページを見ている（3割強は見えていない）

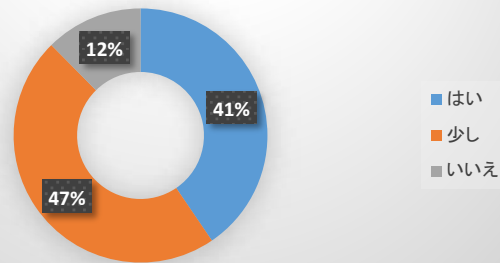
アンケート結果③_(Q13-Q18)

LINE公式を見ている



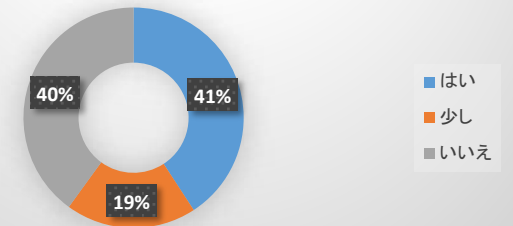
➡ 7割弱は、LINE公式を見ていない

会の情報開示に満足している



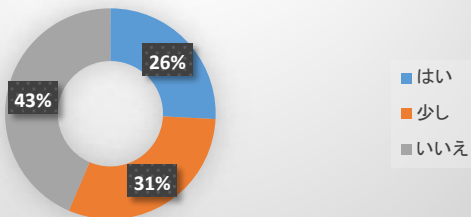
➡ 少しを含めると6割弱が、情報開示に何らかの改善が必要と感じている

収入の8割は賛助会員から知っている



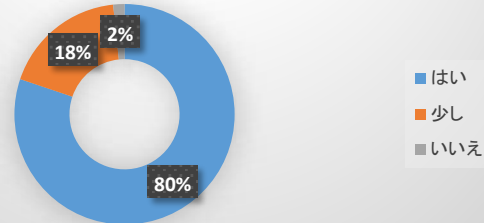
➡ 4割の回答者が、収入の8割を賛助会員の会費であることを認識されていない

予算、支出、損益等を知っている



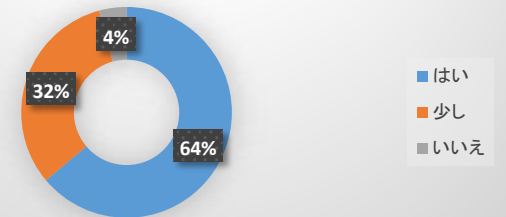
➡ 4割強が、予算や支出の実態を認識出来ない

掃除に学ぶ会の人間関係は良好である



➡ 8割の回答者が、人間関係が良好であると回答

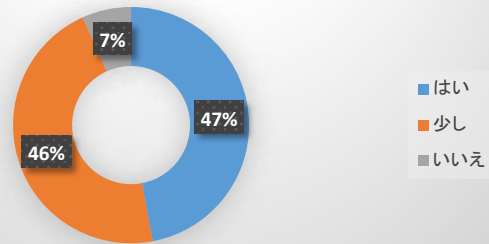
掃除に学ぶ会の活動に満足している



➡ 少しを含めると3割強が、活動に何らかの改善工夫が必要と感じている

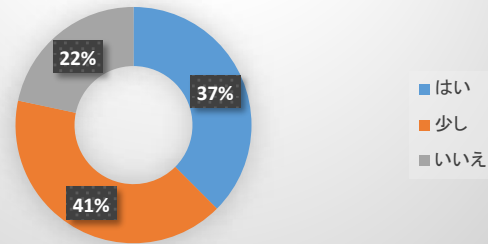
アンケート結果④_(Q19-Q21)

何でも話せて、提案もできる



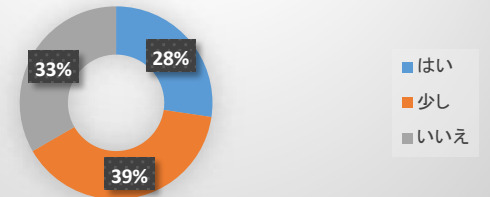
➡ 少しを含めると、半数強が何でも話せるための工夫が必要と感じている

本部やブロックとの交流はある



➡ 少しを含めると、6割強が本部とブロック間の交流不足を感じている

掃除以外の団体との交流をしたい



➡ 掃除以外の団体との交流の必要性は、意見が二分している

会員アンケート結果のまとめ

(本内容を具体策に展開して、今後の方針に織り込んでまいります)

1. 項目別要約

① 認定資格

- ・ 「認定資格がなくなったことを知らない」人が3割以上。
- ・ 若い人ほど「認定の意味が分からない」という声が多い。
- ・ 「認定はなくても掃除はできる」と考える人と、「認定は信用につながるから必要」と考える人で意見が割れている。

| 項目 | 「はい」 | 「少し」 | 「いいえ」 | 備考 |
|---------------------|------|------|-------|----------------------------|
| Q6:認定資格を失ったことを知っている | 55% | 11% | 34% | 「いいえ(知らない)」が3割強。情報伝達不足が明確。 |
| Q9:再取得した方が良いと思う | 66% | 21% | 13% | 約8割弱が「再取得に肯定的」または「前向き」。 |

- ➡ 会の中で「認定の意味」が共通理解になっていない。情報伝達不足。再取得には肯定的・前向き

② 情報発信・広報

- ・ ホームページやLINEを「見ていない」人が多い。
- ・ 「清風掃々」は読まれているが、一部に「字が小さいところがある」「写真や色が少ない」「内容が硬い」などの指摘がある。
- ・ 「SNSや動画を広げて欲しい」「Googleフォームで申込を簡単にしたい」という前向きな提案がある。
- ・ 広報不足、情報開示不足への不満が繰り返し指摘されている。

年代別利用状況(アンケートデータから推定)

| 年代 | 清風掃々を読んでいる | HPを見ている | LINE 公式を利用している |
|--------|------------|---------|----------------|
| 20～30代 | 30% | 40% | 60% |
| 40～50代 | 50% | 30% | 40% |
| 60代 | 60% | 20% | 25% |
| 70代以上 | 70% | 10% | 15% |

- ➡ 情報が「届いていない」が問題。

③ 財務・会費

- ・「収入の 8 割が賛助会員のお金」であることを知らない人が多い。
- ・「予算や損益を知らない」という人が 4 割以上。
- ・「年会費 2 万円は高い」「東日本大震災の義捐金の使途不明」という不満が特に高齢層から多い。

➡ 財務の透明性不足・情報発信と会費負担感が大きな課題。

④ 組織運営・世代交代

- ・ 役職を高齢者が長く務めざるを得ない状況。「ブロック長の代わりがない」との声もある。役職の固定化が組織風土を悪化させているとの指摘もある。
- ・ 「会議が多すぎる」「ブロック制ではなく県単位の方が活発になる」という不満。
- ・ 若手を育てる仕組みがない、方策が分からないため、世代交代が進まない。

| 区分 | 推定平均年齢 |
|---------------|----------|
| 代表世話人全体(全国平均) | 約 65 歳前後 |
| 東北・北陸ブロック | 67～69 歳 |
| 関東・中部ブロック | 62～64 歳 |
| 関西・中国四国ブロック | 65～67 歳 |
| 九州・沖縄ブロック | 64～66 歳 |

➡ 運営の仕組みが古いままで、引き継ぎが難しくなっている。

⑤ 活動の在り方

- ・ 「掃除に誇りを持っている」「人間関係が良い」との声が多数。理念は強い支えになっている。
- ・ ただし「トイレ掃除は負担が大きい」「若者は入りにくい」「指導の押し付け感」という課題あり。
- ・ 「夢拾い」「街頭清掃」「学校との連携」「外国人と一緒に清掃」など軽負担の新しい活動への提案がある。

➡ 活動内容に偏りが見られるため、参加の間口を広げる必要がある。

2. 問題の原因—なぜ起きているか

1. 情報の伝わり方が弱い: ホームページや LINE を使っていない、使おうとしない人が多い。清風掃々は読みやすさの改善要。
 2. 大切なことが共有されていない: 認定や財務など基本情報が知られていない、また必要と思っていない。伝えていない。
 3. 活動が偏っている: 思いは強いけれど、誰でも入りやすい形になっていない。若者が参加しにくい。
 4. 引き継ぎの仕組みがない: 役職が固定され、高齢者に負担が集中している。
 5. 認定資格への考えが割れている: 認定の意義が明確にされていない。
-

3. 改善の方向性

① 情報を分かりやすく届ける

- ・ 情報の交通整理 情報はホームページをメインとし、LINE や清風掃々から案内する。
- ・ 定期日 (たとえば月 2 回、決まった曜日) に情報を出す。
- ・ 清風掃々の更なる読みやすさ改善

② 大事なことを簡単に説明する

- ・ 年次報告書 (活動状況・方針・実績・寄付一覧) を作成して、伝えていく。
- ・ 会の存在意義、認定の意義を明確にして、随時伝えていく。
- ・ 会員とのコミュニケーションが双方向となるように改善する。

③ 誰でも入りやすい活動にする

- ・ 「トイレ掃除」「街頭清掃」に加え、「夢拾い」など特徴ある活動紹介を通じて、間口を広げていく。
- ・ 簡単なチラシなどを作って、初心者・若い人に呼び掛ける。
- ・ 学校や企業、他団体と連携・交流し、若い人を巻き込む。

④ 後継者づくり

- ・ 役職は任期制を設けて、交代できる仕組みにしていく。
- ・ 各地域で若い人をリストアップして、研修や交流の場を提供する。

「2025 年会員アンケート」資料4

「認定資格の取得経緯とNPO 法人制度の概要」

■認定資格の取得経緯 「なぜ認定資格を取得したのか」

日本を美しくする会は、株式会社イエローハットの創業者である鍵山秀三郎氏が掲げる「掃除を通して心の荒み・社会の荒みをなくし世の中を良くする」との理念に賛同した有志の集まりにより、1993 年 11 月に任意団体として結成されました。賛同の輪は全国各地、また海外にまで拡がり、多くの「掃除に学ぶ会」が設立され、活動が展開されていきました。

しかし、規模の拡大に伴い、対外的な契約締結や銀行口座開設に支障をきたすようになりまし
た。また株式会社イエローハットに依存する事務局体制、鍵山氏など一部の個人や会社に資金面
を依存する運営に、任意団体として継続していくことに無理が生じてきました。

そこで、この活動がより広く認知され、共感する方々から寄付を募ることが、鍵山氏の掲げる理念
の実現に資するとして、NPO法人にとどまらず認定NPO法人制度を用いた運営を目指すことにな
りました。そして 2010 年 4 月 22 日、当会は認定NPO法人の資格を取得しました。

■NPO法人制度について

NPO法人とは、正式には「非営利活動法人」といい、「営利を目的としない社会貢献活動を行
う法人」とされます。収益事業を行うことは認められていますが、収益は社会貢献活動に充て
ます。「NPO法人」(一般)と所轄庁に認定された「認定NPO法人」とあります。

「NPO法人」(一般)は、全国に49237法人、「認定NPO法人」は、1305法人あります。(202
5・9月末) 認定NPO法人は、「広く市民からの支援を受けている」ための認定基準があるため
にハードルが高く、NPO法人の2・7%にしか当たりません。

会員側としては、直接参加や寄付により活動を支援するという、社会貢献への参画意識や精
神が挙げられます。直接メリットは、「確定申告」の際、寄付による所得税の控除を受けられ、「認
定NPO法人」の場合、「NPO法人」の数倍になることが最大のメリットです。会側としては、広く
市民や行政から社会的認知が受けられます。

認定NPO法人の財源は、「事業収益」67・9%、「寄付金」15・9%、「補助金・助成金」11・
6%、「会費」3・5%とされます(内閣府)。当会の場合は、ほとんど事業はしておらず、賛助会員
様からの「寄付」に全面的に頼っております。そして各地の活動は多くのボランティアスタッフの
ご奉仕に頼っています。

NPO制度は、所轄庁の監督をゆるくし、その分「情報公開を通じた市民の監視を前提とする」
とあり、事業報告書などは一般に公開する義務があります。